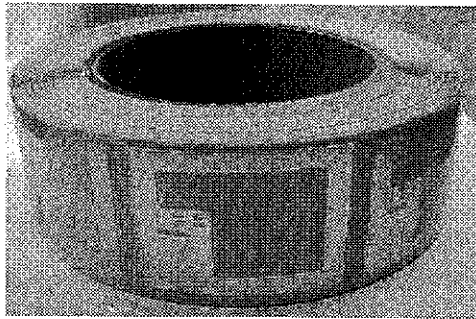


三宅、中国合併で生産

セキユリテイー ラベール 本社ライン移設



【広島】三宅（広島市安佐南区、三宅正光社長、0822・2955・7100）は、中国でセキユリテイーラベル（写真）を生産する。円高に

対応しシェアを拡大するための措置で、販売提携している天馬と折半出資して上海に合併会社を設立する。5月にも稼働させる計画。本社工場の生産ラインを移設し、製品は全量を三宅が買い取り世界で販売する。現在数%の世界シェアを30%に引き上げる目標を掲げており、達成に向け段階的に投資していく。

新会社の名称は「密雅開電子（上海）」。資本金は1

億6000万円で三宅と天馬が折半出資した。董事長は三宅社長、総経理は天馬から選出し二人ずつ役員を出す。生産管理と技術開発は三宅が、人事・労務を含めた管理業務は天馬が担当する。

上海市松江區の天馬のグループ会社、上海天馬精塑の敷地内に工場スペースを確保した。生産設備はアルミ箔から回路パターンを刃型で打ち抜く装置がメイン。このほかタグに薄く接着剤の層を

形成する装置や検査装置など製造から検査、出荷までのラインをそのまま移設する。

生産能力は年間5億枚規模。従業員は当初10人からスタートし、3年後をめどに40～50人まで拡大する。売り上げ規模もこれに比例して4倍にする。これにより三宅は自社製品の国際競争力を高めることができ、一方天馬はセキユリテイー事業を充実できる。

三宅はセキユリテイー

ラベルメーカー。「ダイカット製法」と呼ばれる独自の生産手法を用いており、主流のエッチングタグと比べ正確に回路構築でき、不要部分のアルミを全量リサイクルできるなどの優位性がある。